

# ゆめ旅 KAIGO!! フォーラム Vol.9 開催

## ゆめ旅 KAIGO! フォーラム実行委員会

〒120-0038 東京都足立区千住橋戸町 12-1-701

### 助成事業の概要

**事業目的:**「あなたは誰かを頼っていますか?～『受援力』を発揮するために～」をテーマに、支援を受ける力(受援力)の重要性を伝え、社会的課題を共有する。

**日時:**2025年2月1日(土)13時～15時  
(Zoom開催、参加者60名)

**登壇者:**町 亞聖氏(フリーアナウンサー、ファシリテーター)、ブローハン聡氏(一般社団法人コンパスナビ代表理事、YouTube『THREE FLAGS～希望の狼煙～』運営)、YOYOKA氏(ドラマ、米国よりオンライン登壇)、山本隆幸氏(作詞家)、学生団体「ゆめ旅 KAIGO!」(千葉商科大学)

これらの内容は、支援を「受ける」ことへの抵抗感や障壁を具体的な事例をもとに共有し、当事者・支援者双方が孤立を防ぎ合う仕組みづくりとなることをざしている。また、多様な経験者の生の声を通じて「受援力」の大切さを広く認識してもらい、社会全体で支援の輪を広げるきっかけを創出する狙いもある。

### 事業の成果

「ゆめ旅 KAIGO! フォーラム Vol.9」として開催した今回のテーマは、「あなたは誰かを頼っていますか?～『受援力』を発揮するために～」として開催した。ファシリテーターをつとめた町 亞聖氏は、高校在学中に母親がくも膜下出血で倒れ、10年にわたって介護を担った“元祖ヤング

ケアラー”として知られ、近年はフリーアナウンサーとして医療・介護問題の啓発に尽力している。また、自身が著した『受援力』を通じて、支援を「受ける」ことに潜む心理的ハードルや、その重要性を、フォーラムの進行を通じて参加者に問い続けている点が印象的であった。

ゲストとして招いたのは、幼い頃から義父の虐待を受け、周囲のサポートを得て自立したブローハン聡氏。当時どのように支援を受けたのか、その経験を率直に語ってもらったうえで、現在は自らが支援を行う社団法人の代表として、困難を抱える人々を支える活動を続けたり、自らの体験を講演や著書、SNSを通じて発信していると強調した。

2年前に家族とともにアメリカへ移住した15歳のドラマ・YOYOKA氏は、移住直後、住居に水道が通っていなかったり、せっかく住めた町が台風被害に遭うなどの状況に置かれながらも音楽活動と学業を続け、周囲の得てファーストアルバムをリリースし、記念ライブも開催できたことを淡々と語った。その支えに対する感謝を胸に、今後は自分自身が発信者やサポーターとして活動を広げていきたいとの思いを力強く述べた。

作詞家の山本隆幸氏は、高知県内の入所施設からオンライン中継で参加し、音楽を通じた共生社会の可能性を示唆した。

学生団体「ゆめ旅 KAIGO!」(千葉商科大学)はスタジオにて、長年取り組んできた、千葉県市川市で継続してきた多世代交流の事例を発表し、誰もが気兼ねなく支援を受けられる社会づくりの意義を学生の視点から強調した。Zoomを利用

して全国から約 60 名が参加した今回のフォーラムは、アンケートでも「頼れる相手がいると気付いた」「支援の方法を具体的に学べた」という声が多く寄せられた。今後は当事者同士や支援者とのネットワークをさらに強化し、「受援力」を軸とした連携の枠組みを一層発展させていくことをめざしていく。

## ■ 成果の広報・公表

このフォーラムでは、支援を「受ける」ことの大切さを多角的に示すことに成功し、当事者・支援者双方が「受援力」を発揮する社会の可能性を広く伝えられた。特に、ヤングケアラーや虐待被害者、海外移住後の孤立を経験した当事者の声が、参加者の共感と学びを深める大きなきっかけとなった。一方で、盛りだくさんの内容ゆえに焦点を絞った方がより理解が深まるとの声も聞かれたため、今後はテーマの整理も検討していきたい。本フォーラムの内容や登壇者の発言は、公式ウェブサイトや SNS を通じて積極的に発信する予定である。登壇者インタビューやレポート記事を広く公開し、「受援力」を高める具体的なヒントをより多くの人々に届けるよう努める。こうした広報活動を通じて、“誰もが気兼ねなく支援を受けられる社会”をめざす取り組みを継続的に広めていきたいと考える。

## ■ 今後の展開

「ゆめ旅 KAIGO !フォーラム実行委員会」では、今回のフォーラムを通じて、支援を「受ける」ことの重要性和、それを妨げる障壁がより具体的に浮かび上がったと捉えている。一方で、ヤングケアラーや虐待被害、海外移住後の孤立など、多岐にわたる当事者の声を取り上げた結果、テーマが広範になりすぎたという指摘もあった。今後は

こうした意見を踏まえ、課題をさらに整理し、ひとつひとつを深く掘り下げる工夫を進めていく方針である。あわせて、「受援力」を高めるための啓発や意見交換の場をオンラインと対面の双方で拡充し、これまで 9 回を重ねて得た知見やネットワークも活かして、新たな専門家や当事者を招き、多角的な視点を取り入れていく。これにより、誰もが気兼ねなく支援を受けられる社会の実現へ向けた研修事業をいっそう継続・発展させる考えである。